



TITLE:

トムキンス鏡に就いて

AUTHOR(S):

CITATION:

トムキンス鏡に就いて. 天界 1936, 17(189): 108-108

ISSUE DATE:

1936-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167393>

RIGHT:

に従へば、6mm では、寧ろハイゲンスの方が優るとのことである。接眼レンズ 6mm 以上の高倍率はその必要がない。

トムキンス鏡に就いて

先月、待望の60センチの大反射望遠鏡が、花山天文臺に到着した事は、新聞、急報、天界等でよく御承知の筈である。今、其の最も重要な、鏡に就いて簡単に試験の結果を發表する。

鏡材 直径 610mm, 厚さ 83mm の見事な硝子材である。硝子材は、クラウン系だと思ふが、著るしく青味が強い。或は鏡材だけは可なり年代が古いのかと思つて居る。厚さが口径の $\frac{1}{7.5}$ 程度である事は、稍薄目とも云へるが、其れでも、重さが68キロ(約18貫)もあつて、一人ではとても運びきれない。

作者 トムスキンスの自作らしい。鏡面製作者としては、名前を聞いた人では無いが、此れ程のものを仕上げたからには、相當自信のある人だと考へられる。但し署名は無く、製作年等は不明である。

焦点距離 383cm f 6.3 である。目的にも依るが、此の位の口径にしては長い方である。(但し、此の値は 2cm 内外の誤差はあり得る。)

鏡面 研磨状態は良好である。但しキズは稍多く、又表面のカリブにも、少し素人臭い點もある。然し左程に云ひ立てる程度ではなく、カルプ1よりも劣るのは已むを得ないとしても、期待以上に良好な面であつた。見た目には殆んど典型的な拋物線の影が見える。遠慮のない批評を加へると、端 1cm 巾にタイン・ダウンが存在し、5cm 程入つた所に稍角が出来て居る。次いで平坦なカリブが續き、中央 15cm 程には軽度の穴がある。但し、此の穴は、全く斜鏡に隠れるだろう。修正量は、端のタイン・ダウンを除けば、大體に於て正しく、端 1cm 弱も絞れば(此の部分には、製作後、特に今度の運送の途中に小さなカケを可なり作つたらしい)良好な鏡だろう。要するに素人らしい點は残つて居ても、極く眞面目な堅實な面だと云ふ事になる。猶附屬の斜鏡平面1個、凸鏡2個は、試験をしなかつたが、又機會を見て、改めて全般的な發表をしたい。(木邊)